

新社長



日本電線工業会の専務理事から古河電工業電線に転じ、この6月に社長に就いた。「顧客を第一に考え、

今後も品質やサービスをさらに磨

きながら製品を使い続けるものを残したい」と前を見据える。現有の新製品を着実に育てつ

古河電工入社以来、新製品開発に携わる機会が多く、光通信の黎明期には光ファイバの研究に没頭。収益の

ん引役となった半導体レーザの開発にも力を入れた。さらに次世代材料の高温超電導線材を手掛ける米スーパー

づくりと、人づくりを進めたい」と笑顔。新環境変化でストレスがかかる中でも、チー

づくりをい。今後は古河電工。今後5年程度はこれまでの投資が回収できる環境が続くと見通している。

「提案の論理性と、やり遂げたいという担当者への熱意を大切にしたい」と話す。サイクリング部出身で大学時代

開発への思い入れは強く「振り返った際に、これに尽力したといえ

を訪れ積極的に呼びかけている。古河電工業電線は

機能線事業は新エネルギー関連プロジェクトや大型機械向けな

「提案の論理性と、やり遂げたいという担当者への熱意を大切にしたい」と話す。サイクリング部出身で大学時代

顧客第一で品質・サービスに磨き

古河電工業電線 白坂 有生氏

ど、設計から使用までの期間が長い製品も多

も。(古瀬 唯)

略 歴

白坂 有生氏(しらすか・ゆうせい) 1980年(昭55) 大阪大基礎工卒、古河電工入社。93年光半導体部第二課長、97年人事部人材育成課長、05年半導体デバイス開発部長、12年執行役員、16年監査役、18年日本電線工業会専務理事などを経て、20年6月から現職。

新製品の拡販・創出に注力

